


 Jabra GN

「音質・携帯性・デザイン性」3拍子揃った Jabra SPEAKは円滑な会議運営のラストデバイス

日本が世界に誇る自動車メーカーのひとつ、三菱自動車工業株式会社。同社は2019年1月、JR田町駅前「msb Tamachi 田町ステーションタワー」に本社機能を移し、新社屋での業務をスタートさせた。これに伴い、社員の生産性およびパフォーマンス&モチベーションアップにつなげるべく、ワークスペースも刷新。併せてほぼすべての会議室に導入されたのが、ポータブルスピーカーフォン・Jabra SPEAK710だ。

慢性的な会議室不足解消に貢献

実は、約3年前よりすでに、Jabraのポータブルスピーカーフォン『Jabra SPEAK410』を使用していたという同社。そのきっかけについて、グローバルIT本部システム基盤部担当部長・岡島晃さんは、次のように話す。

「弊社はここ東京・芝浦に加え、岡崎市（愛知県）、京都市（京都府）、倉敷市（岡山県）という主要4拠点を中心に、多くの事業所を抱えています。ただいずれも距離があるため、拠点間のコミュニケーションに苦慮していたのです。もちろん、テレビ会議ができる専用会議室も配置しているのですが、数が限られるため常に予約で埋まり、会議室の空き状況で会議の予定を決める、というような状態が続いていました。そこでこの慢性的な会議室不足を解決すべく、3年前に「Microsoft Skype for Business」を全社導入、簡易的なテレビ会議をできるようにしたのです。それと併せて導入したのが、『Jabra SPEAK410』でした」。

導入にあたっては他社製品も含め、さまざまなモデルを試したそう。そのなかで圧倒的な通話音質の良さと、5~6人規模の会議にちょうどいいスケール感を備えていたのが、Jabra社製スピーカーフォンだった。「音のこもりがなく、圧倒的に聞き取りやすい」と導入に携わった同部の廣口瑛一さんも絶賛する。


 MITSUBISHI
MOTORS

Drive your Ambition

Company

Customer: 三菱自動車工業株式会社

 Web Site: <https://www.mitsubishi-motors.co.jp/>

Country: 日本

Profile

1970年に三菱グループ内から自動車メーカーとして独立。同グループは1917年より自動車生産を行っていたため、日本の自動車メーカーとして最古の歴史を持つ。また、世界初の量産型電気自動車開発の成功や、モータースポーツ事業における世界レベルの大会での総合優勝など多くの輝かしい実績を残している。ブランドメッセージは“Drive your Ambition”。より安全で安心、かつ便利なクルマ社会が実現されようとしている新たな時代の到来に向け、これまで培ってきた技術にさらに磨きを掛けるとともに、時代をリードする新しい価値を提供し、より豊かなクルマ社会を実現させるというビジョンを掲げている。

Jabra Solution

■商品番号

1台 7710-309 (MS) / 7710-409 (UC)

2台セット 7710-309D (MS) / 7710-409D (UC)

■想定使用人数 1~6名 2台連結時: 12名

■USBケーブル/USBドングル/Bluetooth接続



Jabra SPEAK710

“スムーズな会議を
実現するための
高品質の音質が魅力”



簡単操作で担当者の負担も軽減

さらに同シリーズはコンパクトで携帯性にも優れているのも特徴。小・中規模の会議室はもちろん、オープンな打合せエリアでも、PC と Jabra さえあれば即席会議が始められる。結果、意思決定のスピードアップが図れ、同社の会議革命に大きく貢献。そのため新オフィスへの導入も即決だったという。

「工場を併設する事業所では、電波干渉の観点から Bluetooth 非搭載の『Jabra SPEAK410』を使っていたわけですが、本社はそういった制約もないし、最新の『Jabra SPEAK710』なら Bluetooth 搭載と利便性が良いので、テレビ会議専用室以外の会議室に入れることにしました。本社だけで、5~6人規模の会議室は 80ほどありますが、そのすべてと、ほかにも各部署や頻繁に使う社員へ配布。今では主要拠点、事業所を合わせ、約 500台の Jabra SPEAK を活用させていただいています」(廣口さん)

さらに、「プラグアンドプレイで誰でも簡単かつ直感的に操作できるのも魅力」と廣口さんは続ける。

「新しい機器を導入する際は、操作方法のマニュアルを作成したり、それ以降も使い方の説明や質問で時間をとられることも多いのですが、そうした問い合わせやクレームも Jabra 製品にいたっては、ほぼ皆無。ホントに助かっています」と Jabra SPEAK710 の簡易操作性も非常に評価している。

デザイン性の高さも随一

一方、岡島さんは、北欧メーカーらしいデザイン性も高く評価する。

「弊社はクルマのメーカーでもありますから、機能だけでなく、デザインは非常に気にするところ。オフィス空間のみならず、こうした機器ひとつとっても皆、一家言あって、手が抜けません。クルマのデザイン部からもアドバイスがあるくらいですから。デザインの良さって、仕事のモチベーションにも関わりますし、選ぶ際も重要なポイントになります」(岡島さん)

「Jabra 社製スピーカーフォンの場合、ケースをあけたときから違います。とにかくカッコいい。タッチ式の光るアイコンをはじめ、すべてにおいてスマートで洗練されています」(廣口さん)

では、最後に導入検討中の企業の方にメッセージを…
「通話品質にお困りの方には特におすすめです。声が聞き取りづら

くて聞き返しをすることで、その分、時間のロスにもなりますし、コミュニケーションがとりづらいたと会議の内容にまで影響してしまう。もし、聞き間違えて、180度違うことになったら大変ですからね。その点、Jabra は安心。クリアに聞き取れて、会議がスムーズに運びます」(廣口さん)

「PC につながず、無線で 2 台を連結することもできるので、人数が増えた場合の使い勝手もいいですね。このあたりはワイヤレスでトップシェアを誇るメーカーの本領発揮というところでしょうか。音質、携帯性、デザイン、と 3 拍子揃った Jabra SPEAK は全国の事業所で使用させていただいており、今や弊社のビジネスになくてはならない存在です」(岡島さん)

働き方改革が進む昨今、“どこでも会議”を実現する Jabra SPEAK は、成長企業に欠かせないデバイスと言えそうだ。



左より、廣口瑛一さん、岡島晃さん